



第4会場●4F 大研修室

司会／内藤 妙子 福岡県教育庁南筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
川上 義幸 国立大学法人佐賀大学 監事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 奥出雲町全小学校による「たたら製鉄操業体験」プログラム—歴史と伝統と技能を体感するふるさと総合学習の企画と実践— 13:35~14:05

福田 充雄（島根県奥出雲町立仁多中学校 校長）

現在、日本で唯一たたら火が燃える奥出雲の「たたらぶき」は日本中の刀匠に「玉鋼」を供給している。この歴史と伝統を調査学習と実体験を通して学ばせたいとの学校の思いと村下木原氏の思いが一致して平成16年度にスタートした。校長会が企画し、4小学校から出発、現在は11小学校の6年生が総合学習の一環として学んでいる。日本美術刀剣保存協会の現地工場から全面支援を受けて事前学習、「かななかし」、「たたら操業」などの体験実習が行なわれている。奥出雲の「たたら」はふるさとの誇りとして子ども達に浸透しつつある。

2 番匠川流域ネットワークによる子どもの自然体験活動支援—活動団体のネットワーク化と番匠川自然資源の教育的活用— 14:10~14:40

平野 憲司（大分県佐伯市 番匠川流域ネットワーク 事務局長）

番匠川流域ネットワークは活動支援センターとして番匠川を活動のステージとしている各種団体の特性・特技を持ち寄って、仲介や連携を図り、子どもの野外活動を支援している。機能はあくまでもネットワーキングで、主役は繋がっている30余の個別の団体である。プログラムはカヌーやヨットのような川遊びから、番匠川流域の自然観察、木工、植林、そば打ち、音楽会、ゴミひろいまで多様である。合い言葉は、「こんなことやりたいのですが、できますか？」、「手伝ってもらえますか？」、「いいですよ」という具合である。

ティータイム

14:40~15:05

3 桃太郎の田舎へ泊まろう「瀬戸内 島めぐり ぼっけえキャンプ21」—長期キャンププログラムの手法と教育効果— 15:05~15:35

宇野 均恵（岡山県笠岡市 NPO法人子ども劇場笠岡センター 理事長）

「青少年の意欲向上・自立支援事業（文科省）」の委託を受けて行なった全国公募事業。全国から33名（小学3年～中学3年）の参加者があり、親と離れて3週間のキャンプを行なった。プログラムは各種ワークショップのほか、キャンプ地となった瀬戸内海の島の「職業体験」、「生活体験」、「自然・文化体験」などである。活動を支えたボランティアスタッフは高校生から70歳代までだった。子どもたちの成長はもとより、ボランティアスタッフも活動支援を通して自分たち自身の研修機会となり、関係者の自己肯定や信頼感の醸成に資するところが大きかった。

4 子どもとともに遊び、学び、汗を流す父親グループの教育貢献と地域交流—「福米東おやじの会」プロジェクト— 15:40~16:10

内藤 旗彦（鳥取県米子市 福米東おやじの会 渉外担当）

平成14年「学校週5日制」の施行と同時に父親有志が結成。子どもの成長支援を目指すキャンプ、プレーパークなど野外での体験活動を中心に展開するかわら、父親を中心とした保護者相互の交流を育んできた。プログラムの実施にあたっては、小学校PTA、公民館、「わかとり科学技術育成会」、「とっとりおやじ連」などと連携すると同時に活動の進捗状況についてホームページとメーリングリストを活用して間断なく情報発信を続けてきた。